

飯田市歴史研究所第5期中期計画（案）概要

飯田市歴史研究所は、市誌編さん事業を恒久的な地域史研究事業として位置づけ直し、これまで4期にわたる中期計画に基づいて継続的に地域の歴史や文化を調査研究し、その成果を現在および未来の市民に還元すべく取り組んできました。

平成29年度からスタートした第2次飯田市教育振興基本計画前期計画に合わせて公表した、教育分野の個別計画となる飯田市歴史研究所第4期中期計画が令和2年度で終了します。

歴史研究所のこれまでの取り組みを踏まえ、設置目的に示された基本方針を堅持し、飯田市歴史研究所第5期中期計画を令和3年度から令和6年度までの4年間を期間として策定しました。

◇ これまでの成果と課題

【第1期】（2002-2007）

- 自治体立の歴史研究機関として、基礎研究（各研究員の調査研究）と基礎共同研究（基盤調査〔史料調査・オーラルヒストリー調査・歴史的建造物調査・歴史的公文書調査など〕・課題研究・単位地域研究からなる研究所全体で取り組む調査研究）を基盤とした体制を確立させることができました。
- 飯田市地域史研究集会、地域史講座、月例研究会などを通して、調査研究の成果を市民へ公表するとともに、飯田アカデミアやゼミナールといった市民とともに学び、考える場を設けました。また、市民からの要望をうけた出前講座も積極的に行いました。
- 調査・研究活動の成果を踏まえ、『みる よむ まなぶ飯田・下伊那の歴史』『満洲移民』などの書籍を刊行しました。また、小・中学生向けのジュニア・ライブラリー『わたしたちの飯田線』も出版しました。
- ▲市民と歴史研究所との関わりは主催イベントなどに限られ、日常的な活動を十分に知ってもらうまでにはいたりませんでした。
- ▲調査研究事業が当初の計画どおり進まず、進行管理が不十分でした。
- ▲調査・研究・教育を軸とする美術博物館や中央図書館との連携・協働が十分できませんでした。

【第2期】（2008-2012）

- 第1期に引き続き、基礎研究と基礎共同研究に着実に取り組みました。また、市役所（本庁）の非現用文書（保存年限が満了した公文書）の移管・評価選別・保存作業を定着させることができました。さらに、旧役場文書（旧南信濃村役場文書など）の整理も行いました。
- 飯田市地域史研究集会、地域史講座、定例研究会、飯田アカデミア、ゼミナールなどを安定的に企画できました。また、座光寺・長野原・鼎・羽場などにおいて、地域の市民の歴史研究活動と共同した調査を進めました。
- 史料叢書・調査報告書・地域の歴史叙述を柱とした出版事業に取り組みました。とくに、飯田・上飯田の古代から現代までの歴史をまとめた『飯田・上飯田の歴史』（上・下）は大きな成果といえます。また、ジュニア・ライブラリー『水引のまち飯田』も刊行しました。
- ▲活動が活発となり、事業量が増大してきたことにより、事業の優先順位をつけ効率的な活動が求められます。
- ▲飯田アカデミアは大学のないこの地域で高等教育水準の内容を提供することとし評価も受けていますが、一方で講座の内容が市民の求めるテーマとかけ離れているというご意見もいただきました。

【第3期】（2013-2017）

- 引き続き、基礎研究と基礎共同研究（市役所非現用文書の移管・評価選別・保存作業を含む）に取り組みました。なかには、解体直前の蔵から、丘の上の貴重な史料を救出したこともありました。また、鼎・下久堅・上郷・千代・川路に残る旧役場文書の整理作業も行いました。
- 飯田市地域史研究集会、地域史講座、定例研究会、飯田アカデミア、ゼミなども着実に実施しました。座光寺をはじめとする地域との連携も進みました。出前講座として、小・中学校での授業や飯田女子短期大学での講義なども行いました。中・高校生の職場体験も積極的に受け入れました。

○オーラルヒストリー『戦争と養蚕の時代を語る』やジュニア・ライブラリー『飯田・下伊那の災害』といった書籍を刊行しました。

▲座光寺や長野原といった一部の地域とは安定した協力・協働関係を築けていますが、歴史研究所が対象とする範囲からすれば、ごくわずかに限られています。関係の拡大と深化を図る必要があります。

【第4期】(2017-2020)

○引き続き、基礎研究と基礎共同研究に着実に取り組むとともに、空き家の取り壊しなどにより、所蔵者のもとので保管が難しくなった貴重な史料の寄託や寄贈も積極的に引き受けました。また、市内20地区の旧役場文書の整理を終えることができました。

○飯田市地域史研究集会、地域史講座、定例研究会、飯田アカデミア、ゼミなども着実に実施しました。とくに川路での旧役場文書調査の成果を公表する地域史講座に積極的に取り組みました。また、飯田・下伊那で生活をしながら研究に取り組む人材を育成する市民研究員制度の充実化を図りました。現在、7名の市民研究員が活躍しています。出前講座は地域の諸団体及び地域外からの依頼を受け多数開催しました。

○歴史的建造物や歴史的景観の調査・研究成果をもとに、『飯田・下伊那の歴史と景観』を刊行することができました。そのほか、『飯田・下伊那の少年たちの満州日記』『伊那谷の暮らしと住まい』も出版しました。

▲貴重な史料を市民へ公開し、さらには未来へ引き継ぐために、史料の調査や公開体制のさらなる効率性が求められます。

▲美術博物館や図書館及び公民館との連携、地域や研究団体との連携は、まだ不十分であり課題が残されています。

▲地域や研究団体との連携も、現状に満足せず、拡充を目指していく必要があります。

【4期まで主な教育・出版の総括】

教育：飯田アカデミア 90回 延べ3143人、地域史講座 75回 延べ2194人

出前講座 258回 延べ10,575人、ゼミナール 1,284回 延べ11,848人

出版：史料編纂8冊、調査報告書2冊、研究成果(年報)18冊、発刊支援等23冊

単位地域の全体史「飯田・上飯田の歴史(上下巻)」、ジュニア・ライブラリー「わたしたちの飯田線」「水引のまち飯田」「飯田・下伊那の災害」、市民ライブラリー「満州移民」、

◇ 第5期中期計画

1 基本方針

- ① 歴史や文化が生み出した様々な遺産を未来へと継承すべき「地域遺産」とし、これを調査・記録し、保存と公開を図ります。さらにその内容を研究し、成果を多様な形で市民に還元し、共有の財産とします。
- ② 戦争や災害・くらしの記憶や日々過去となりつつある現在を記録し続けることを目指します。
- ③ 調査・研究は飯田市を中心に、歴史的に密接な関係にあった下伊那の全域をも対象とし、関連する諸地域も含めて広い視野で包括的に活動を進めます。
- ④ 地域史研究の拠点ばかりでなく、今後は地域遺産保全や地域連携の取組でも拠点となることを目指します。
- ⑤ 歴史研究所の取組の諸成果を地域市民や国内外に広く発信し、交流を図ります。

2 重点目標

① 地域アーカイブズ事業の拠点化

地域アーカイブズ(地域史料)は地域市民の自己学習や研究の基盤になるものです。共有財産であるこれら資料を守り継承させるため、調査や保存に取り組みます。美術博物館や図書館、公民館等と連携し、得られた史料や情報の保存、公開、活用に向けて体系的なシステムの構築と、文書保存や閲覧利用の充実を図ります。

② 地域遺産の再発見

飯田・下伊那には豊かな自然に生まれ多様な文化に彩られた地域遺産が現在も残存しています。地域遺産を地域の宝物として大切に守り、これに学び、活用する条件を整備し、地域への愛着、地域の魅力づくりに結び付けていきます。これらの活動には、市民の皆さんや、関係機関と連携して取り組みます。

③ 地域市民との連携強化

地域市民自らによる史料調査や地域の学習・研究活動との協力・協働を重視します。

④ 地域史研究・地域遺産保全での交流

地域史研究と地域遺産保全に取り組む機関や団体との交流・連携を積極的に進めます。

⑤ 恒久施設への移転

2017年9月に鼎に仮移転しました。第5期中期計画期間中に関係機関との連携・協働に留意しながら歴史研究所の施設や環境についてあるべき方向性を検討します。

3 基本的事業活動

1 調査・研究

歴史研究所の諸事業の基盤であり、関係する諸研究員とも連携し研究・調査事業に取り組みます。

1-1 史料調査

- ①個人の家や区、学校など地域に残る文献史料
- ②オーラル史料
- ③建造物・景観
- ④近現代の行政文書等
- ⑤映像・音声

1-2 研究活動

基礎研究、基礎共同研究

地域史研究集会、ワークショップ、定例研究会、史料研究ノート、年報の編集・刊行

【目標】

- | | | | |
|-----------|------------|----------|-------|
| ・地域史研究集会 | 年1回開催 | ・ワークショップ | 年2回程度 |
| ・定例研究会 | 研究員年1回以上報告 | ・史料研究ノート | 月1回程度 |
| ・研究成果（年報） | 4冊（年1冊） | | |

2 教育・普及活動

1 飯田アカデミア

様々な分野の第一線の研究者による最新の成果を提供

2 地域史講座

刊行した地域史叙述をテキストとする講座や単位地域を対象とした講座を継続するとともに、地域遺産の巡見など活動の多様化を目指します。

3 出前講座

4 ゼミナール、ワークショップ

5 古文書講座

6 公開史料調査・協働史料調査

【目標】

- | | | | |
|----------|--------|--------------|----|
| ・飯田アカデミア | 年4回開催 | ・地域史講座及び出前講座 | 随時 |
| ・ゼミナール | 研究員1講座 | | |

3 研究者養成と地域連携

飯田・下伊那の地域史研究のさらなる活性化を目指し、研究者の養成や座光寺・川路地区などで行ってきた地元の団体と協働した史料調査活動を引き続き進めます。

- 1 市民研究員
- 2 地域史研究団体との協働

【目標】

- ・市民研究員課程 年2人
- ・市民研究員ゼミ 年3～4回開講

4 地域史編さん・出版事業

- 1 史料叢書 ①飯田・下伊那史料叢書 ②オーラル史料編
- 2 調査報告書 南信濃和田佐藤家文書など
地域史叙述 ①単位地域の全体史 ②史料研究ノート ③地帯史の検討
- 3 テーマ叙述 ジュニア・市民ライブラリー
- 4 研究成果 (年報19-22号)
- 5 その他 ①論文叢書検討 ②刊行支援

【目標】

- ・研究成果(年報) 4冊(年1冊)(再掲)
- ・史料叢書 ・調査報告書 ・地域史叙述 ・テーマ叙述 ・監修・刊行支援 など
約10冊刊行準備及び刊行

4 歴史研究所の体制整備

① 組織・運営

引き続き歴史研究所の組織体制について現状の点検と評価を行いながら、任期付研究員制度も含め検討します。また、国や民間などによる研究助成の獲得の継続的な取組や、調査研究活動の成果や所蔵目録の公開等を迅速にできるように情報公開についての改善に努めます。

② 連携(5期追加)

美術博物館や中央図書館との連携をさらに深めるとともに、地域史研究団体や地域市民との連携に努めます。

◇ これまでの経過及び今後の予定

- | | |
|-----------|---|
| 7月 | 歴史研究所協議会の開催 活動についてご意見をいただく |
| 8月 | 第4期中期計画の内部評価及び外部評価の実施 |
| 9月 | 原案策定 原案について顧問研究員からの意見(電子メール)
研究部全体会議において意見聴取 |
| 11月17日(火) | 政策協議 |
| 12月9日(水) | 部長会 |
| 12月14日(月) | 12月定例教育委員会でパブリックコメント提出案の説明・協議 |
| 12月15日(火) | (議会予備日)社会文教委員会協議会への報告、審議 |
| 12月19日(土) | 歴史研究所協議会 |
| 1月上旬～ | パブリックコメント実施(30日間) |
| 2月上旬 | パブリックコメント結果修正 |
| 2月12日(金) | 2月定例教育委員会 パブリックコメント結果を含めた修正案 |
| 2月中旬 | 歴史研究所協議会 パブリックコメント結果を含めた修正案 |
| 3月2日(木) | 部長会議 (場合によっては文書決裁) |
| 3月12日(金) | 3月定例教育委員会 議案審議 |
| 3月19日(金) | 飯田市議会全員協議会 計画を報告 |